

# みず

No.35  
道彩展機関紙

道彩展機関紙“みず”第35号  
発行 北海道水彩画会  
道彩会代表 小堀 清純  
札幌市西区発寒5条8丁目  
13-24-1101号  
年1回発行



<http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

## 第38回 道彩展を終えて

2018年9月19日～  
9月24日  
札幌市民ギャラリー

### 力作が多く、 選考に苦勞

道彩会代表 小堀 清純

第38回道彩展は、当初胆振東部地震の影響で開催が危惧されましたが、幸いなことに207点の作品が搬入され、厳選した130点が展示され、盛会裏に幕を閉じました。一般出品者が多少減少しましたが多様性のある表現と具象・抽象などヴァリエティに富んだ良い作品が多く充実した展覧会となり好評でした。今回力作が多く賞の選考に苦勞しました。僅少差で賞を逃した方の今後の奮闘を期待します。高齢化が進む中、作品の大きさにについて自らの目的や力量、体力にあった最適なサイズに見直すのも良いと思います。また、一般出品者を増やすために会員・会友の一人一人が水彩仲間に出品するよう真剣に呼びかける必要があると痛切に思います。最後にそれぞれが精進努力し、観る人に感動を与える絵を描くよう頑張りましょう。

### 第38回道彩展受賞者

#### 道彩展賞

宮武 輝久 (江別)

#### 北海道知事賞

松山 頌子 (札幌)

#### 札幌市長賞

斗澤 勇一 (札幌)

#### 札幌市教育長賞

伊林 昌子 (江別)

#### 北海道新聞社賞

松崎 勝子 (七飯)

#### 八木賞

糀谷彌栄子 (札幌)

#### 伸子賞

高田登志子 (札幌)

#### 奨励賞

伊勢 幸久 (札幌)

亀倉安規子 (札幌)

河井 恵子 (江別)

丹保恵利子 (北見)

原 貴子 (石狩)

#### 会友努力賞

大東奈保子 (札幌)

佐藤千津子 (紋別)

山田 明夫 (札幌)

#### 会員推挙

阿部 勝美 (札幌)

糸塚 章子 (札幌)

渡辺貴美子 (札幌)

#### 会友推挙

伊林 昌子 (江別)

河井 恵子 (江別)

丹保恵利子 (北見)

松崎 勝子 (七飯)

## 造形への意志が脈動

美術評論家  
柴橋 伴夫

どんな組織であっても、基本は「個」の集合体である。だから「個」がしっかりとしていなると組織は継続できないことになる。美術展の場合は、その「個」の個性がとても大事になる。私は公募展などをみる時、特に留意していることがある。それは何か。何よりも、会員・会友の作品の質・レベルはどうかということだ。というのも、それが会の「顔」となるからだ。

第38回展をみて強く感じた事は、会員のたゆまない造形への意志が脈動していたことだった。心に残った作品をあげてみたい。野尻勉の「心の詩(舞)」。蝶をコラーージュし斬新。工藤路子の「[Frasces]」は、輪郭を描かず場の空気感を醸し出している。田中裕紀子の「家景」は、家並みを「層化」することで空間に



「イルミネーション02」宮武輝久



「優しい花」高田登志子

動性を創出。黄倉和子の「夏野原」は、風景の中に詩を発見していた。太田智子の「道化」は、デッサンが生氣を保ち佳品。谷村一美の「白い花」は、色を抑制することで静物同志の対話を描く。伊東幹子の「湖上のまつり」は、夜空に咲く大輪の華を賛美。沖野弘恵の「紫の空間」は、分厚い質感を構築し黒の線が生氣を放つ。中田やよひの「[Stratone]」は手前にテーブルを配し、静物を小さく描くことでこれまでにない空間思考を追求。武田輝雄の「北海道の秋」は卓越した筆力とすぐれた色感覚を発揮。小堀清純の「跨線橋のある風景」は実景をじっくりと再現。このように、ここで取り上げた会員の作品は、十分に練り上げられた技法をベースにして、水彩画の「わく」をのりこえ、絵画としての空間を造り出そうとしていた。一人一人が、みずからの造形づくりにおいていい意味で競い合っていた。私は、それに感動した。こうした会員の作品と比較すると会友の作品のレベルが少し

低いように感じた。空間づくりの技法。質感づくり。色のもつ力。それらがまだ未熟なようだが、会の継続とレベルアップには、会友の奮起が待たれる。

受賞作では、道彩展賞の宮武輝久の作品が、色を自在に重ねつつ光あふれる情景づくりに成功している。逆光の中の人物もいい。札幌市長賞の斗澤勇一の作品は、紅葉と水たまりを絶妙のタッチでとらえていた。八木賞の穂谷彌栄子は、人物把握の確で人物像に新風を送った。奨励賞の中では亀倉安規子に注目した。寒色をうまくコントロールしていた。会員推挙では阿部勝美の「木造廃船」が、古い題材だが良く対象をみつめていた。



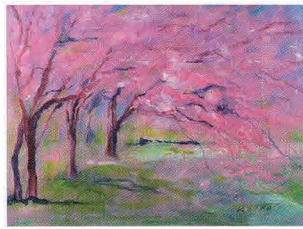
「暮れる」伊勢幸久

## 受賞者の声

松山 頌子

今回このような賞をいただき大変ビックリしておりますと共にうれしくもあり教室の先生、出品するよう背中を押して下さい教室の仲間の方々に心からお礼申し上げます。随分前、ある絵の教室で「物は物よりステキ

に描くことが大事」と言われまして。その本当の意味とその又奥にあるものには仲々気付くことが出来ず今まで時が経ってしまいました。今もわかった等とはとても言えませんが、工夫とか色とか興味深いことは沢山あると面白く思っています。今回の花も消したり洗ったり、それでもどうだろうかと不安だらけです。これからもステキな絵を目指して描き続けたいと思います。



「さくら舞う2」河井恵子

斗澤 勇一

初めまして。何から話してよいかかわからないのですが、初めて秋の絵を描きたく思い、前から此の構図を思い浮かべていました。トラクターの車後に雨が降るのを待ち、夜遅く雨が降りつづく翌朝晴天、車を走らせシャッターON。一度30号で試し描き、翌年春に描き始めました。まだ思うようになかなか描く事ができなかつた。力不足です。道彩展3年目で未熟者がラッキーで申し訳なく思っています。これに恥じないよう尚一層の努力、前進してゆくつもりです。

大変ありがとうございます。



「Memory of June」亀倉安規子

原 貴子

このたびは奨励賞をいただき、誠にありがとうございます。この輝かしい賞を受賞することができたのは絵画教室の先生、生徒のみなさん、私の家族のおかげです。その応援してくれた皆様に心からのお礼を申し上げます。絵のモチーフとなった葡萄についてですが、春は控えめな小さな花を咲かせ夏は一つ一つ実を作りはじめます。秋になる頃に大きな実ができる様は、今までの努力を感じさせられるように喜びを感じます。私もこの葡萄に共感する部分があり、絵画をはじめた頃を思い出します。何もかも未熟でした。そしてこれからは絵画を描き続けていきたいと思えます。



「花を飾って」大東奈保子

## 第11回 研究会

7月14日、札幌テレビ塔において、道展会員、グループ環代表の中吉功先生をお迎えしました。「私の作品づくりについて」と題し、絵との出会い、制作の苦しみと喜び、そのための準備・環境整備等のお話しをされました。30点以上の先生の淡彩スケッチ原画を回覧し、スケッチの必要性を指摘されました。会員・会友・一般から38名の参加。アンケートの多くは「先生のお人柄が感じられ、具体的で分かり易く、とても勉強になりました。」という回答でした。



「藻岩山道 I」山田明夫

## '19 行事計画

### 第38回 研究会

2月19日(火)〜2月24日(日)

ギャラリー大通美術館

### 研究会 写生会(予定)

### 第39回道彩展

9月18日(水)〜9月23日(月)

札幌市民ギャラリー

搬入：9月14日(土)

### 道彩会地区展

函館展 未定  
江別展 未定

## 第39回道彩展 作品公募

- 会期 2019年9月18日(水)〜9月23日(月・祝日)
  - 会場 札幌市民ギャラリー
  - 搬入 2019年9月14日(土) 10:00〜18:00
- <http://www.ne.jp/asahi/so-bi/net/dousai/>

## 道彩展に関するお問い合わせ

- 道彩会事務所 辺見富美子  
江別市ゆめみ野東町12-5  
(011)385-8210
- 函館地区連絡所 寺岡 弘子  
函館市西旭岡町2-23-3  
(0138)50-2611
- 江別地区連絡所 中島 恭代  
江別市野幌若葉町46-31  
(011)385-4217

## 編集後記

道民にとって経験したことのない大地震に見舞われ、開催が危ぶまれた今年の道彩展でしたが、出品者の熱意が伝わる、よい良い作品が展示されました。また、批評を真剣に聞いている姿に感動したところです。発行にあたり、ご協力いただきました方々、ありがとうございました。

嶋倉・渡辺・木原